



草冠の学校 *Wreath Collection*  
kusakanmuri school

フラワーアーティストが提案する、個性豊かなクリスマスリース。  
この冬は、手づくりのリースで素敵なお時間を過ごしませんか。

「草冠の学校」の詳細とお申込みは  
こちらからご覧ください。

公式サイト <http://school.kusakanmuri.com/>  
f <http://www.facebook.com/kusakanmuri-school>

5周年の感謝を込めて

# Thanks

2016年12月3日、kusakanmuriは  
オープンから5周年を迎えます。

「都会の野原」をコンセプトにスタートしたkusakanmuriは  
草花を通じたコミュニケーションのみならず  
多彩な内容・場所でのレッスンや体験の提供や  
作り手の想いが込められたアイテムの紹介など  
日々の暮らしを豊かに育む場を目指して少しずつ成長してきました。

これからもkusakanmuriは  
「ころをつなげていく」ことを大切にし  
お客さまが集い、つながり、想いを生み出す  
循環の場でありたいと思っています。



# Anniversary *th*

恵比寿・代官山・中目黒 *スタッフおすすめショップ*

kusakanmuriスタッフが気に入りの、  
ご近所のお店を紹介します

中目黒 **nakameguro SLOW TABLE**  
ナカメグロスローテーブル

今号の対談で使わせていただいた、  
緑に囲まれたテラスが心地よいオ  
ープンカフェ&ビストロです。中目黒  
駅から駒沢通りに入り、目黒区役所  
方面を過ぎたあたりの大きなケヤ  
キが目印。オススメ料理はカフェな  
のになんと特製餃子。ほかに岩手  
県産「吊るし熟成短角牛」の肉料理  
など、ワインとの相性がばっちりの美  
味しい料理がたくさんあります。

東京都目黒区上目黒2-20-5 1F  
中目黒駅から徒歩6分  
tel 03-6303-2906  
open 11:00 close 23:00 不定休

## Flower

冬のシーズンをあたたかく彩るおすすめ商品と、  
いちおしの草花をご紹介します。



冬景色の  
シャンペルブーケ  
白い小花にマットな  
質感の草花をたっぷり  
あしらった、冬の  
田園風景をイメージ  
したブーケです。  
6,000円

kusakanmuri  
〒150-0021  
東京都渋谷区恵比寿西1-17-2  
tel 03-6415-4193  
<http://www.kusakanmuri.com>  
open 12:00 close 19:00  
(土日は18:00まで)  
火曜定休

JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン  
恵比寿駅西口 徒歩4分  
東京メトロ日比谷線 恵比寿駅4番出口 徒歩2分  
※グリーンフラッグが目印です

バラ・ブルゴーニュ  
丸くカップ状に咲く  
花がかわいらしいオ  
ールドローズです。  
上品な香りに癒され  
ます。(中山優香)

実付きヒノキ  
オリーブグリーンやブ  
ラウンの丸い実を付け  
るヒノキです。実の重  
さで少ししなるのも魅  
力。(吉田麗)

kusakanmuriの  
いちおし!

シルバーキャット  
ふわふわの白い花穂  
と、やさしいグリーン  
の小さな葉が美しい  
草花です。ドライフ  
ラワーとしても楽し  
めますよ。(中山千裕)

※入荷状況によりご用意  
できない場合がございます

コロリの *白い花* みつけ!

朝は、白い花だったのが……

「花の色はうつりにけり  
な……」と歌ったのは小野  
小町。平安の昔から老化に  
ともなう容色の衰えは切実  
な問題だったが、植物界に  
はアンチエイジングを大胆  
なスゴ技で解決する花があ  
る。それは美花の誉れ高い  
芙蓉の園芸種、スイフヨウ。  
花びらの色は朝咲いた時は  
清らかな純白、午後ほんのり薄紅に変わり、夕方萎むころには妖艶なピンクに変化する。文字通り色仕掛けとでも言おうか、白い花が酔ったように赤くなるので酔芙蓉(スイフヨウ)と呼ばれる。



スイフヨウ花三態・左のほろ酔い、右は酩酊、  
上は泥酔 鎌倉長谷寺 2015年10月

紫外線は美肌の大敵だが、スイフヨウの白い花にとっても気温が上がると紫外線も強くなる午後になると、有害な光線を防ごうと抗酸化色素のアントシアニンが合成され、白い花を赤くする。色の変化は人の目には楽しいが、花は種子を实らせることが唯一最大のテーマ、そのための受粉作業は昆虫の役割だ。では虫の目から見たスイフヨウの色の変化は、果たして魅惑的なのだろうか？

文・写真/田中見二 通称コロリ。1947年長崎生まれ。教科書のデザインや女性誌「クロワッサン」のアートディレクションなどに関わる。

## kusakanmuri

草冠通信  
Autumn  
2016  
Winter



フラワーショップ kusakanmuri より  
秋冬の最新情報をお届けします。

# Cross Talk

ハンドメイドオーガニックセラピストで「草冠の学校」講師でもあるi mirisiさんと、同じ講師でフワースタイルの守屋百合香さんに、「香り」のもつ不思議な効果や暮らしを豊かにするアイデアなどについて対談していただきました。

## 薫る暮らし



守屋 百合香 (もりや ゆりか)

フワースタイル、コラムニスト。パリと東京の二都市を拠点にしながら、フラワーレッスンなどの活動を通して詩情豊かなライフスタイルを提案している。草冠通信オンライン内コラム「花をめぐるパリ手帖」を連載。

### オーガニックコスメの広がり

守屋 i mirisiさんが香りの世界にすむきっかけは、何だったのでしょうか。i mirisi 元々は、普段口にする食品の添加物が気になって、自分なりに調べ始めたのがきっかけです。それで、じゃあコスメはどうなんだろうと思い始めて…。その頃からオーガニックコスメを、しかも食べられるくらい安全なものをつくるコスメを学び始めました。たとえば化粧水に蜂蜜を使ったり、エタノールの代わりにウオッカを使ったり。

守屋 それは面白い発想ですね。パリではここ最近、人々の添加物に対する意識が高まっていて、農薬や添加物を使わないビオやオーガニックへの興味が強くなっています。一過性のブームではなく毎日の生活に根付いていて、街ではビオの食品専門店もよく見かけるし、小さなスーパーにも必ずビオコーナーがあるんです。ワインやカフェ、食品だけではなく、コスメや香水に関しても、人工的なものよりも、できるだけ自然由来のものや身体に優しいものを選択する人が増えています。

### “自分だけの香り”とは？

i mirisi そういえば先日、パリに旅行したとき、手作りコスメの材料を売っているショップに行ったら想像以上にたくさんの人がいたので、びっくりしたことを覚えています。守屋 パリの人たちはDIYが大好きですし、何よりも個性を重んじるので、自分の意志で材料を決められる点も人気なかもしれませんね。i mirisiさんの香りのワークショップでも、参加者が“自分だけ

の香り”を作ることができると聞きました…。i mirisi トップ、ミドル、ベースに分かれている40種類ぐらいの精油の中から数種類ずつ好きな香りを選んでいただき、それらを調香して一本の香水を作ります。選ぶときにはブラインドで、後からご自身が何を選んだか分かるように、手作りの調香手帳をお渡ししています。ブラインドでも、無意識のうちに自分が必要とするものをちゃんと選び取れているのが面白いところ。だから、先入観抜きに“心地よい”と感じられることを大切にしています。そ



i mirisi (イミリシ)

ハンドメイドオーガニックコスメセラピスト。i mirisiとはクワチア語で「〜と香り」を意味する。香りと寄り添いながら肌やからだにも心地よいこと、基本的には食用可能レベルのオーガニックにこだわったコスメ作りをテーマに活動。

視覚、味覚、聴覚と同様の身近な感覚である「嗅覚」。実はまだ科学的に謎が多く残る分野です。記憶との密接な結びつきがあり、科学的な治療法にまで使われる「香り」。数多くの香りは植物から生まれてきました。その生命力あふれるエッセンスは、日々の暮らしに健やかで美しい時間をもたらすものではないでしょうか。

ういう風にしてできあがったものにはとてもその人らしさが表れていて、参加者同士で嗅ぎ合っくと、“まさにその人らしい香り”でじっくりくと皆さん驚きます。守屋 無意識に選んでいるからこそ、本来の自分らしさが滲み出るのでしょうか。そもそも、どんな香りを心地よいと感じるのか、嗅覚における“その人らしさ”というのはどうやって生まれるものなんですか。

i mirisi 実は、嗅覚と記憶って深く結びついているんです。人間は赤ちゃんの頃から、何かを記憶するときには香りも一緒にインプットしているんです。嗅覚は直接脳の本能を司る部分に伝わるので、意識しないうちにどんどん香りを記憶しているんです。

守屋 つまり、嗅覚は、その人自身の記憶の積み重ねとも言えるんですね。i mirisi 嗅覚を研ぎ澄ませて選んだ香りは、本当にその人自身の記憶そのもので、とても個人的なもの。香水をつけると、もうひとりの自分に抱きし

められているかのような安心感があるんですよ。守屋 特別な自分だけの香りは、パリでも人気が出そうです。



バラの蕾や花弁、ラベンダー、精油のブレンドやフランキンセンス、白檀などを用いた、心がほっと緩むサシェ。

### アール・ド・ヴィーヴルと香り

i mirisi パリでは、香りはどんな風に楽しられているのでしょうか。守屋 パリの人たちには、暮らしを美しく豊かに楽しみたいという“アール・ド・ヴィーヴル”の精神が息づいています。香りや花を暮らしに取り入れることも、そのうちのひとつ。お金をかけなくても、皆暮らしを自分らしく心地よいものにしたいと考えている

から、五感を大切にしています。フラワーショップには、贈り物のためだけでなく家に飾るための花を買いに来る人がたくさんいます。そして、花や緑に思いきり鼻を近づけて匂いをかぎ、「いい香り！」と声をあげるんです。逆に、「これはあまり好きじゃない」といったことも正直に言います。i mirisi 日頃からフルに五感を活かして、自分の感覚を研ぎ澄ましているんですね。自分自身を含めて、最近私たちの生活は視覚だけに偏ってしまいがちだという気がします。守屋 たとえば、匂いの花は色も匂いも活き活きとして輝いています。道でもフラワーショップでも、五感を研ぎ澄ませてその生命力を感じてみていただきたいです。モノではなく命ある花を



アンティークの香水瓶の蓋を開けると、まだほのかに香りが漂います。時間も場所も超えた、甘く華やかな香り。

家に生けることは手がかかることですが、だからこそ、花を愛でることが日々の暮らしを豊かにしてくれると思います。

### 暮らしに取り入れたい香り

i mirisi 今のお話にも通じるころがあります。天然の精油だけででき

た香水も、花や食べ物と同じで生もの。市販の製品に比べて調整剤などの添加物が入っていない分、持続時間が短いことがデメリットとしてあげられがちです。でも、言い換えれば、目的や気分によってつけかえられるということでもあるんです。朝はリフレッシュ、夜はリラックスというように。守屋 暮らしのシーンに、気軽に香りを取り入れやすくなるように感じますね。i mirisi 家で過ごす時間が増える冬に向け、刺繍作家さんと一緒にサシェを作っています。枕元や玄関に置けるように。森のなかへは頻繁に行けないけれど、自分の五感を研ぎ澄ませて、日々の暮らしのなかでも植物の香りがそばに寄り添ってくれているような感覚を楽しんでいただきたいと思います。